

## 第二節 韓國駐劄軍司令部

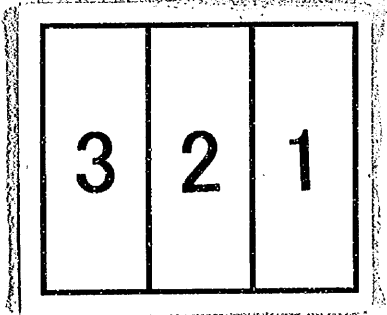
### 一曰露戰爭間

明治三十七年二月日露戰爭發生當時露國の勢力威強大なるに反し日本の實力は過少に評價せられ反日侮日の風は韓國朝野に汎延するに反し親露恐露分子は李王朝を始め民間に充滿せり韓國駐劄軍司令部は克く此の間に処して王朝王臣の盲動を封じ他面民間志士の結合する一進会(長、李容九)其の他と脈絡相通じ其の協力を得て治安を保持し韓國民の日本軍への協力を獲得すると共に進んでは鴨綠江軍編成の基盤となりて之を滿洲に送る等功績見るべきものありたり曰露講和後日本政府はポーツマス條約に基く駐兵權に依り第十三第十五の兩師団を韓國駐劄軍の指揮下に置き治安確保に在せしめたり

### 二曰韓國保護統治間

0006

## 分割撮影ターゲット

分割した部分の撮影順序	
分割撮影した理由	A 3版以上のため
文書等名	朝鮮軍変遷概要
上記のとおり分割撮影したことを証明する。	

附表第一

朝鮮軍要選

内務

軍次現数

軍司令官

参謀長

主

要

事

蹟

大將

37

少將 原口兼清

中佐 青藤三郎

以 4 3

三月十日 朝鮮國駐劄軍司令官に就任す。爲る司令部を遷移し四月三日京城長谷川町六番地に位置す。

九月七日 露露戦役進展に伴ひ滿洲に於ける作戦軍を爲るに安全に於ては朝鮮國軍を北せしむるに司令部亦改設せらる。

十月十六日 露露戦役進行に伴ひ第十三師團(長谷川兼清)第十五師團(長中將沖野光孝)を駐劄せしめ朝鮮國駐劄軍司令官に爲し韓國の守備に任せしめらる。

七月三十日 韓國駐劄軍司令官に爲る見平時編制と爲る。

三月 六月 滿韓駐劄部隊派遣要領に基き駐劄一師團となり九月十九日師團(長中將中村覺)は内地に帰還す。

七月 三月 海軍事件より暴動起り一旅團(長少將恒吉道)を日本より増派せらる。

朝鮮國駐劄軍司令官

大將男爵 長谷川好道

37. 2. 8

少將 牟田敬九郎

少將 大谷喜久藏

少將 落合豊三郎

十月 一日 京城龍山軍司令部新築完成に之に移す。

九月 十一日 第六師團(長中將男爵西島助義)は第十三師團(長中將岡崎生三)と交代す。

五月 四月 駐劄軍兵力増強を爲る駐劄派遣隊を創設せられ概ね二十五年交代の服務せしむ。

二月 十八日 日本主権回復を爲る爲め小島正保(長中將)は第十三師團(長中將)に交代す。

二月 十日 第八師團(長中將小泉正保)は第十三師團(長中將)に交代す。

朝鮮駐劄軍司令官

大將男爵 安東貞美

大將 井口省吾

大將 秋山好古

大將 松川敏胤

少將 立花小一郎

少將 古海巖潮

少將 白水次

少將 市川聖太郎

三月 平安南道、京畿道、黃海道附近に独立騷擾事件一(露露戦役起り)軍に於て大に及ぶと云ふ。

四月 第六師團(長中將立花小一郎)主力を編成し師團司令官に龍山に其の他は羅南咸興に位置す。第九師團(長中將橋本勝太郎)は交代して日本に帰還す。

朝鮮駐劄軍司令部

大將 菅和谷太郎

少將 大野豊四

三月 平安南道、京畿道、黃海道附近に独立騷擾事件一(露露戦役起り)軍に於て大に及ぶと云ふ。

四月 第六師團(長中將立花小一郎)主力を編成し師團司令官に龍山に其の他は羅南咸興に位置す。第九師團(長中將橋本勝太郎)は交代して日本に帰還す。

同様に歩兵第四旅團(後第三師團)編成と共に其の隷下に之を編成せられ、龍山に位置し臨時派遣隊と交代す。

六月 一日 朝鮮駐劄軍司令部を朝鮮軍司令部と改稱す。

八月 駐劄軍大將秋山好古特命檢閲使として第十九師團管下部隊に對し檢閲を定む。

十月 海軍事件より暴動起り、師團司令官龍山其他は平壤、龍山、大邱、大田に位置す。第十九師團司令官龍山に移動す。

師團より機林、宣明少將、木村、東正少將の三支隊と聯合局子行龍山方面に派遣し治安恢復に任ず。

翌年一月撤去す。

朝鮮駐劄軍司令部

大將 大庭二郎

大將 菅和谷太郎

少將 安満欽一

九月 關東震災朝鮮人避難事件に伴う解防の治安維持及び公東地方物資補給を行ふ。

六月 陸軍大將福田雅太郎特命檢閲使として軍司令部及び第十師團管下の部隊に對し檢閲を施行す。

三月 平安南道、京畿道、黃海道附近に独立騷擾事件一(露露戦役起り)軍に於て大に及ぶと云ふ。

四月 第六師團(長中將立花小一郎)主力を編成し師團司令官に龍山に其の他は羅南咸興に位置す。第九師團(長中將橋本勝太郎)は交代して日本に帰還す。

同様に歩兵第四旅團(後第三師團)編成と共に其の隷下に之を編成せられ、龍山に位置し臨時派遣隊と交代す。

六月 一日 朝鮮駐劄軍司令部を朝鮮軍司令部と改稱す。

八月 駐劄軍大將秋山好古特命檢閲使として第十九師團管下部隊に對し檢閲を定む。

十月 海軍事件より暴動起り、師團司令官龍山其他は平壤、龍山、大邱、大田に位置す。第十九師團司令官龍山に移動す。

0007  
0008  
0009

朝野軍司令部

16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	15	14	13	12	11	10	9	8	7	
		大將 中村孝太郎			大將 小磯國昭	大將 植田謙吉		大將 川嶋義之		大將 林銑十郎	大將 南次郎		大將 金谷範三	大將 守岡守成	大將 鈴木莊六		大將 菊池慎之助		大將 大庭二郎		大將 市川聖太郎			
		少將 如藤錦平		少將 久納誠一	少將 佐賀義重	少將 大甲敏吉		少將 見玉友雄		少將 中村孝太郎		少將 寺内壽一	少將 林仙之	少將 藤井春澄		少將 安満欽一		少將 大野豊四						

三月平定南滿洲、京畿道、黄海道附近に独立騷擾事件  
 三月十五日、南滿洲に、京畿道、黄海道附近に独立騷擾事件  
 四月、南滿洲に、京畿道、黄海道附近に独立騷擾事件  
 五月、南滿洲に、京畿道、黄海道附近に独立騷擾事件  
 六月、南滿洲に、京畿道、黄海道附近に独立騷擾事件  
 七月、南滿洲に、京畿道、黄海道附近に独立騷擾事件  
 八月、南滿洲に、京畿道、黄海道附近に独立騷擾事件  
 九月、南滿洲に、京畿道、黄海道附近に独立騷擾事件  
 十月、南滿洲に、京畿道、黄海道附近に独立騷擾事件  
 十一月、南滿洲に、京畿道、黄海道附近に独立騷擾事件  
 十二月、南滿洲に、京畿道、黄海道附近に独立騷擾事件



明治三十八年十一月の日韓新協約に依り日本保護政治となり同年十二月二十日統監官制初代統監伊藤博文は翌三十九年二月京城に入りたるが官制第四條(統監は韓國の安寧秩序を維持する爲必要と認むるときは韓國守備軍の司令官に対し兵力の使用を命ずることを得)に基き反動韓分子の策動を封圧し疆内の安寧秩序を維持したり

同年七月三十日軍司令部は戦時編制を解き平時部隊となりしが韓國軍司令官と統監との関係は韓國駐劄軍司令部條例第三條(韓國の安寧秩序を保持する爲統監の命ありたるときは兵力を使用することを得但し事急なる場合に於ては便宜之を処理し後統監に報告すべし)前項の場合に於ては直に陸軍大臣及び參謀總長に報告すべし)を軍の行動の基準とせり

0010

翌明治四十年二月駐劄師団を一ヶ師に減少し且日本より輪番交代に派遣することせり

然るに同年七月海牙平和會議に李王朝より韓國統治に関する密使派遣せられたる事件發覺し國際的にも國內的にも幾多の波紋を描き出したれば日本政府は一ヶ旅団を韓國に増派して警備を嚴にせり

其の後海牙密使事件は日本の善政に対する李王朝無軌の行動なりとする論米國英國に起り韓國獨立の不適当にして日本と合邦するを可とする論國の内外に澎湃たるものあるに至れり

日本政府は明治四十二年五月臨時派遣隊制度を定め駐劄師団の交代をニヶ年毎に行ふこととし翌四十三年駐劄師団交代の際は前駐部隊にして日本に帰還すべき第六師団の出發を遅延して一時的には第十二師団と併置し韓國の治安維持を強化せり

0011

別に統監府の官制に於て示せる「統監府警務総長は朝鮮憲兵  
隊司令官たる陸軍將官を以て充当すること」により警憲一体の指導  
をなす外第一線に於ても警憲協力の状態を整へ水も浅らざる警  
備を實施せり斯くて憲兵も亦各都邑面の末端迄配置せられた  
り斯くて今年八月二十四日日本が韓國を併合することとなりたるか  
不平の徒各地に暴動を起したるも逐次鎮圧平靜に歸せり

### 第三節 朝鮮駐劄軍司令部

明治四十三年八月二十四日日韓併合し韓國は朝鮮と改稱し軍司令部  
亦朝鮮駐劄軍司令部と改稱せり

朝鮮總督府條例は初代總督伊藤博文の強硬なる主張により總  
督は文官にして陸海軍を統率することなれり即ち朝鮮總督  
は委任の範囲内に於て陸海軍を統率する権限を附与せられ総